

平成29年度全国学力・学習状況調査結果から読み取れる、児童生徒や学校の状況

調査人数 小学6年生 1073名 中学3年生 1227名

(1) 学力調査から

- ・正答率は実施した全ての教科で宮城県や全国の値を下回った。
- ・国語に比べると、算数・数学で全国との差が大きい。
- ・平均正答数で見ると、中学校数学A以外は、あと1問多く正解することで、全国の値を上回るか、それに近い数値となる。
- ・国語では基礎的な漢字や語句の理解、算数・数学では、教科書レベルの基礎的な計算問題等に大きな課題が見られる。

【課題が見られた基礎的・基本的な問題の一部】

- 小国A ・参加タイショウ ・4年生のキボウ者
- 小算A ・ $6 + 0$ 、 5×2 ・ $5 \div 9$ (商を分数で表しましょう)
- 中国A ・組織のキボを大きくする。 ・雨で運動会がエンキになる。
・(1そで 2えり 3むね 4わき)を正して話を聞く。
- 中数A ・等式 $x + 4y = 1$ を y について解きなさい。
・半径が12cm、中心角が 120° のおうぎ形の弧の長さを求めなさい。
(円周率は π とする。)

- ・記述問題においては、無答率が高い。また、最後まで解答しようとして、途中であきらめてしまう傾向が依然、うかがえる。

(2) 学校質問紙調査から

- ・「学力向上に向けた5つの提言(宮城県教委)」「石巻市立学校教職員スタンダード(石巻市教委)」、次期学習指導要領改訂の趣旨等に基づいて、授業の工夫・改善に取り組んでいる状況がうかがえる回答状況であった。課題は、小学校は「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導」、中学校は「一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価すること」である。
- ・家庭学習については、昨年度同様、家庭との連携・協力がよく図られている状況が読み取れる。課題は、「調べたり文章を書いたりする宿題を課すこと」「家庭での学習方法を、具体例を挙げながら教えること」において、よく行っている割合が低かったことである。
- ・近隣の学校と合同して授業研究等を行うなど、小・中の連携が進められていることが読み取れる一方、教育目標を共有する取組については課題が見られた。9年間を見通し、地域の子どもたちをこのように育てたい、という方向性を共有し、一貫した教育活動を展開する必要がある。
- ・放課後を活用した補充的な学習サポートは多くの学校で行われているが、長期休業を

活用した補足的な学習サポートについては、県や全国の状況と比較すると、十分とは言えない状況である。「石巻市学び支援コーディネーター等配置事業」の活用を、より一層図りたい。

(3) 児童生徒質問紙調査から

- ・学校に行くのは楽しいと肯定的に回答している割合は、小学生で8割以上、中学生で7割以上となっている。小・中学生とも、全国の値を下回っているが、その差は昨年度よりも小さくなっている。
- ・将来の夢や希望をもっていると肯定的に回答している割合は、小学生で8割以上、中学生で7割以上であり、小・中学生とも、4年続けて全国の値を上回った。
- ・自分には良いところがあると感じている児童生徒の割合は、小学生で7割以上、中学生で6割以上であり、小・中学生とも、全国の値を下回った。しかし、昨年度の値と比較すると、小・中学生とも肯定的な回答の割合が増加している。
- ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと思っている割合は、小・中学生とも9割を超えている。
- ・先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている割合は、小・中学生とも昨年度は7割台だったが、今年度は8割台に上昇した。
- ・国語の勉強が好きと肯定的に回答している割合は、小学生が全国の値を上回った。中学生は、昨年度まで全国の値を大きく上回っていたが、今回はやや下回った。
- ・算数・数学の勉強が好きと肯定的に回答している割合は、小・中学生とも全国の値を下回った。
- ・家庭での学習時間については、ある程度まとまった時間（小学生1日1時間以上、中学生2時間以上）取り組んでいると回答した割合が、小・中学生とも全国の値を下回った。休日の学習時間については、1時間未満と回答した割合が小学生で4割台、中学生で3割台であり、家庭学習時間が不十分な児童生徒が多い状況がうかがえる。
 - ・長時間（3時間以上）テレビ等を視聴したり、ゲーム、インターネットやメールをしたりする割合は、全国の値を上回っている。
- ・スマートフォンや携帯電話の所持率は、小学6年生で6割台、中学3年生で9割弱となっている。
- ・読書に親しんでいる児童生徒の割合（1日30分以上）は、小・中学生とも3割台だが、中学生が全国の値を上回っている。読書が好きと回答している割合は、小・中学生とも6割台後半で、昨年度は中学生が全国の値を上回っていたが、今年度は小・中学生とも全国の値を下回った。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果に基づき、石巻市子どもの未来づくり事業を展開する中で、以下の5つの課題に取り組んでいく。

1 教員の指導力向上

- 「学習指導の改善を図る研修会」を定期的で開催し、「学級づくり」「人間関係づくり」「信頼関係づくり」「児童生徒理解」の4つの視点から、教員の力量形成を図る。
- 「社会性と情動の学習」「協同学習」「友達同士で支え合う活動」「児童生徒の、望ましい行動に対する積極的な介入と支援」を意図的・計画的に実践することにより、「石巻市立学校教職員スタンダード」の具現化を図る。
- 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組んでいく。

2 児童生徒の、自己有用感の醸成

- 小・中連携のもと、児童生徒の志を高める取組を推進するとともに、児童生徒の心のケアに丁寧に対応していく。
- 学校の教育活動全体を通して、「人を思いやる心」「命を大切にする心」「ふるさとや自然のすばらしさを感じ取る心」を養う。
- 体験活動の充実を図り、他者と協力したり困難を克服したりする良さを味わわせる。

3 生活習慣及び学習習慣の確立

- 児童生徒個々の生活習慣を把握し、心配な児童生徒には個別の指導や声かけ、家庭に対する啓発を行う。
- 家庭学習時間の確保、家庭学習の仕方、家庭学習の内容について、小・中で連携した取組を行うとともに、家庭との連携を図る。

4 学校図書館の有効活用と読書習慣の形成

- 学校図書館司書の配置を拡充し、学校図書館の3つのセンター機能（読書センター、情報センター、学習センター）の充実を図る。
- 学校図書館やその図書を利用した授業及び朝の読書活動の推進を行う。
- 読み聞かせ、好きな本を紹介する活動等を通して、読書への興味を喚起する。

5 基礎・基本の定着を図る学習指導の徹底

- 漢字の書き取りや語句に関する問題、少数・分数の理解や平易な計算問題に課題が見られたことから、これを当該教科ばかりではなく他教科にも敷衍させて、基礎中の基礎となる事項は「全ての児童生徒に身に付けさせるべきもの」として指導を徹底し、確実に身に付けさせる。